

S-RED 通信

社会・地域創発本部 Society Region Emergence Department

emmy fes (エミフェス) 0.8 いよいよ今月開催！



エミフェス
emmy fes.
:event 0.8
Art, Music, Gastronomy, Science and Smile

岩見沢	東京
2022年9月26日(月) 14:00 - 17:00	2022年9月30日(金) 13:00 - 18:30
参加費：無料（完全招待制） 場所：自治体ネットワークセンター <small>（北海道岩見沢市有明町1-20） ※配信はございません。</small>	参加費：無料（完全招待制） 場所：BASE Q <small>（東京都千代田区有明1-2-2 東京エドワードワンビル6F） ※配信はございません。</small>

北大 COI-NEXT ころとカラダのライフデザイン共創拠点は、シリーズ4回目となる emmy fes 0.8 を、岩見沢市（9/26）と東京都（9/30）で開催します。どちらの回も、参加費無料の完全招待制で、オンライン配信は行わない方針です。

9/26 は、北大環境健康科学研究教育センターのシャロン・ハンリー特任講師による HPV ワクチンに関する講演会と、プレコンセプションケアを岩見沢市どのように構築していくのかについて、具体的に検討するワークショップを実施します。また、前回の emmy fes0.7 で提案された、プレコンセプションケアの新たな

名称と、コンソーシアムの中身についても議論をしていきます。

9/30 は、スタンフォード大学教授でアメリカ心理学会フェローのステイヴン・マーフィ重松氏をお迎えし、同氏が提唱する「ハートフルネス（マインドフルネス、思いやり、責任をもって生きることで、幸福と変容を高める方法のこと）」を体験するワークショップを行います。また、S-RED 通信第3号でもお伝えした、映像「生命誕生」のベースとなった、NHK 番組「シリーズ人体・神秘の巨大ネットワーク第6集“生命誕生” 見えた！母と子ミクロの会話」のプロデューサー、丸山優二氏による講演会も行います。

ワクチン接種によって防げる HPV 感染 — 男女ともに予防効果あり

厚生労働省は今年の4月から、小学校6年～高校1年相当の女子を対象に、ヒトパピローマウイルス（HPV）を予防するワクチンの積極勧奨を再開しました。HPV は、性交渉を通じて男女ともに感染する可能性があり、子宮頸がんや口腔咽頭がんなど、様々ながんに進展する前がん病変を含めた、広い疾患の原因となります。感染しても、ほとんどの場合ウイルスは自然に消えますが、持続的に感染すると疾患の原因となります。女性の場合、ある種の型（最も頻度が高いのは HPV16 型と 18 型）に持続感染し、適切に治療されなければ、子宮頸がんに進展する可能性があります。日本では、毎年約 1.1 万人の女性が子宮頸がんになり、約 2,900 人の女性が亡くなっています。

HPV ワクチンは、HPV16 型と 18 型の感染を防ぐことができ、その効果は 12 年間維持される可能性があります。海外や日本で行われた調査では、HPV ワクチンが子宮頸がんの前がん病変を予防すること、また、接種が進んでいる一部の国で行われた調査では、子宮頸がんそのものを予防する効果があることがわかってきています。北大 COI-NEXT ころとカラダのライフデザイン共創拠点では、HPV ワクチンをプレコンセプションケアを支える 1 つの柱として捉えており、イベントや検討会を通して、今後どのように周知していくか議論を深めていきます。

【出典】

- 厚生労働省リーフレット「小学校6年～高校1年相当 女の子と保護者の方へ大切なお知らせ（詳細版）」
(<https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/000901220.pdf>)（最終アクセス 2022 年 8 月 29 日）
- HPV ワクチン WHO ポジションペーパー（2017 年 5 月）厚生労働省健康局健康課予防接種室仮訳
(<https://www.mhlw.go.jp/content/10601000/000838244.pdf>)（最終アクセス 2022 年 8 月 29 日）



HPV ワクチンについて知ってください
～あなたと関係のある“がん”があります～

出典：厚生労働省リーフレット「小学校6年～高校1年相当 女の子と保護者の方へ大切なお知らせ（概要版）」
(<https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/000901219.pdf>)
(最終アクセス 2022 年 8 月 29 日) ←

【ご紹介】 北大 COI-NEXT 共創分野（育成型）

地域エネルギーによるカーボンニュートラルな食料生産コミュニティの形成拠点

温室効果ガスでの気候変動や新型コロナウイルスなど様々な問題が生じる現代で、世界中の誰もが幸せを享受できる、持続可能な社会への転換が模索されています。その中で日本政府は、2050年までに温室効果ガスの排出量から吸収量と除去量を差し引いた合計をゼロにする、カーボンニュートラルな社会の実現を目指すことを宣言しました。そのためには、地域資源をエネルギーとして最大限



出典：JSTパンフレット 共創の場形成支援プログラム2022
(https://www.jst.go.jp/pf/platform/file/coinext_pamphlet2022a4.pdf) (最終アクセス2022年9月1日)

活用し、環境負荷を軽減した食料生産システムを確立するとともに、これらの取り組みをICT等の活用により見える化し、新たな地域の価値創出につなげることで、地産地消で自立的な分散型社会の構築が求められます。

この課題に取り組むのが、2021年度国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）共創の場形成支援プログラム（COI-NEXT）共創分野に採択された、「地域エネルギーによるカーボンニュートラルな食料生産コミュニティの形成拠点（代表 北大大学院工学研究院 石井一英教授）」です。本プロジェクトでは、大学等を中心に、企業や地方自治体・市民等の多様なステークホルダーを巻き込んだ産学官共創を行って、日本の再生可能エネルギーと食料供給基地である北海道を主な舞台に世界を見据え、大学や企業、自治体等の技術・人材を結集し、課題解決と持続運営のための大学の自立化推進をめざして活動しています。

今年の7月12日には、カーボンニュートラルな社会の実現に向けた取り組みと、本プロジェクトの概要を説明するキックオフシンポジウムが札幌で開催され、文部科学省やJST、道内行政機関、参画企業、北大などから多くの関係者が参加しました。今後は、日本の食料供給基地である北海道を起点に、九州地域（他地域も予定）などの再生可能エネルギーに恵まれた国内地域を舞台として研究と実証を行い、さらには人口増加が予想されるアジアやサブサハラ地域に、その成果を世界展開していく予定です。

【出典】地域エネルギーによるカーボンニュートラルな食料生産コミュニティの形成拠点 HP (<https://hu-kyousou-hsc.jp/>)
(最終アクセス2022年8月29日)

VOICE



石井 一英

北大 COI-NEXT 地域エネルギーによるカーボンニュートラルな食料生産コミュニティの形成拠点プロジェクトリーダー
北大大学院工学研究院 教授

昨年10月、共創の場「育成型」に採択されてから、行政、企業、各種団体、学生や各地域のみなさんと本音の議論を重ねながら、拠点ビジョンの策定や研究課題の深掘りをしてまいりました。来月には、「本格型」へ移行するためのステージゲートが待っています。拠点が目指す2050年の社会実現に向けて、事務局の多くのスタッフが一丸となって、本格型に向けて最終コーナーをダッシュしております。地域が変われば世界は変わります。今、行動すれば将来が変わります。自分が変われば社会が変わります。みなさま、応援よろしくお願ひいたします。

今後のイベント（予定）

- 9.02 げんき発見ドック in 岩見沢
- 9.26 emmy fes 0.8 in 岩見沢
- 9.30 emmy fes 0.8 in 東京
- 10.14 イノベーションジャパン内セミナー
(吉野 PL 登壇)
- 10.25 第4回参画機関会議
- 11.05 emmy fes 0.9 in 岩見沢



S-RED 通信
バックナンバー